

仙台教区報

発行所カトリック仙台司教区事務所
 980 仙台市本町一丁目2番12号
 電話〇二二二-2217三七七一番
 編集・発行人 首藤 正義

「キリスト教の日本化」

斎藤 石雄

教区内各県で、信徒大会が次々と開かれています。これは信徒の皆様がそれぞれの立場で使徒職遂行に励んでおられる証しであり、神様もお喜びのことと存じます。

宮城県では、「社会にキリストの平和を」とのメインテーマで7月8日(日)に開催されます。基調講演は井上洋治師(東京教区)で、「日本人とキリスト」について話されます。師は、一億二千万の同胞の救いをこいねがい、かねてから「キリスト教の日本化」を研究され、かつ、この研究を生涯の使命と感じていらつしやる方なのです。

▲子供の心を揺るがす

旧約の神のイメージ

小学生たちに、主の晩さんについて話した時のことです。話はイスラエル民族のエジプト脱出にまでさかのぼり、神の使いが子羊の血を塗っていない家の初子達(即ちエジプト人の)を皆殺しにした、というあの記事を少々どきどき話しました。その時子供達は、「かわいそ

う!」と顔をしかめました。私は、何とかして切り抜けようとあせったのでした。がだめでした。そのためか、それに続く話、つまり紅海の水が二つに分けられ、イスラエル人達は全員海底を歩いて逃げる事ができたが、エジプト人達は全員おぼれ死んだ、ということは、話続けることができませんでした。続けたり、この子供達は「神さま」について、イエズスママが教えて下さった「父なる神」と違つたイメージを持つかも知れないと恐れたからです。

▲私の中の旧約のイスラエル人と

もうひとり日本人

どうも、私が不勉強のためか、旧約聖書の神様は苦手なのです。心のどこかに、さっきの子供達と同感するところが多々あるのです。でも、「神様のなさること、おつしやることはすべて正しいのだ」という第一原則に立て、心のさわめきなどは押しつぶさねば、とも思っています。いわば私の中に、旧約のイスラエル人と曲がりなりにももうひとりの日本人

とが、二人住んでいるのです。

▲キリスト教の日本化に

向けての教会の働きかけ

この二人を、スッキリしたひとりの日本カトリック信徒に仕上げるために、教会の働きかけがここ半世紀の間、二回にわたって行われました。

第一回は一九三六年(昭和11年)5月26日、時の布教聖省長官フマゾニ・ピオンディ枢機卿から、日本駐在教皇使節マレラ大司教宛に送られた「カトリック信徒の国家に対する責務について」の訓令で、当時の重大問題であった神社参拝と、同じく難問であった他宗教儀式による結婚及び葬式等への参加の可否に(2ページ下段へつづく)

司教日程(6月8日現在)

- 6月17日 宣教奉仕者任命式(花巻)
- 18日 司教会議(東京)
- 25日 仙台司教区司祭大会(盛岡)
- 27日 カリタス・ジャパン(東京)
- 29日 スベルマン病院理事会(仙台)
- 7月1日 聖ペトロ聖パウロ祭日(元寺小路)
- 2日 東京大司教区司祭黙想指導
- 8日 宮城県カトリック教会信徒大会
- 9日 教区司祭団役員会(仙台)
- 11日 カリタス・ジャパン教区担当司教会議(東京)
- 13日 人權福祉委員会(東京)
- 15日 大船渡教会堅信
- 22日 あけの星荘堅信



「学校法人」となる

青森県 教区立11幼稚園

青森県に所在する小教区付属幼稚園(設置者・宗教法人カトリック仙台司教区)11園が、昭和59年4月1日付をもつて、学校法人に移行した。これで、昭和56年3月26日に、既に単独で学校法人となっていたイメルダ幼稚園(園長児山六七男師)を加えて、青森県の12の教区名儀幼稚園は全部、学校法人東北カトリック学園(理事長佐藤千敬司教)として装いを新たにしてお発することとなった。

今回、学校法人に移行した幼稚園は、次の11幼稚園である。

- 大渡カトリック幼稚園(園長土井勝吾師)
- 田名部カトリック幼稚園(園長土井勝吾師兼任)
- 野辺地カトリック幼稚園(園長高瀬和夫師)
- 浪打カトリック幼稚園(園長ロペール・ベルニエ師)
- 聖心幼稚園(園長ジル・ランドルヴィル師)
- 聖テレジア幼稚園(園長モリス・ラベ師)
- 弘前カトリック幼稚園(園長ジャン・ギ・デュボン師)
- 三沢カトリック幼稚園(園長アンドレ・レヴェイエ師)
- ファチマ幼稚園(園長渡辺昭一師)
- 十和田カトリック幼稚園(園長マルセル・ポリケン師)
- 五戸カトリック幼稚園(園長マルセル・ポリケン師兼任)

昭和51年頃から、政府は私立幼稚園の学校法人化促進をはかり、当時4県にまたがって42の教区立幼稚園を擁していた司教区も、その対応を迫られていた。仙台司教区責任者、

会から諮問をうけていた幼稚園委員会(当時委員長鷹鷲達衛師)は、昭和54年12月、邦人司祭団管轄園について、学法移行の方向に進むべきであるとの決論を出し、責任役員会はその答申を入れて、各県の状況に応じて、学法化計画をすすめてきたものである。

今回の青森県の幼稚園学法化には、ケベック会管轄園も同調し、青森県教区立全幼稚園の学法化が実現した。

学校法人東北カトリック学園には、青森県外に、宮城県の気仙沼カトリック幼稚園(園長渡辺彰宏師)、石巻カトリック幼稚園(園長深沢豊治師)も所属しており、現在、14の幼稚園を数えるが、昭和59年度には宮城県の5幼稚園、昭和60年度には岩手県の3幼稚園、昭和61年度には福島県の3幼稚園がこの学校法人に移行することが予定されている。福音に根ざした幼児教育の充実をとおして教会活動の一層の発展が期待される。

仙台教区司祭異動

郡山教会助任

パウロ・ヤノシンスキー(松木町教会) 松木町教会助任

チェスワ・フォーリー(東京・ドミニコ会本部)

住所変更

安井 光雄神父・住所

162・東京都新宿区南山伏町一

ハイホーム市ケ谷901号

Tel 03-267-1508

(前ページよりつづく) ついての指導でした。

第二回は、「ローマ聖ペトロのかたわらにて一九六五年(昭和40年)10月28日公布されたカトリック教会の司教パウルス自署及びそれに続く諸教父の署名による、第二バチカン公会議第十番目の公文書『キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度について』の宣言」で、主に仏教について述べた第二項を次の言葉で結んでいます。

「したがって、教会は自分の子等に対して、キリスト教の信仰と生活を証明しながら、賢慮と愛をもつて、他の諸宗教の信奉者との話し合いと協力を通して、かれらのもとに見いだされる精神的、道徳的富および社会的、文化的価値を認め、保持し、さらに促進するよう勧告する」。(傍点斎藤)

まわりを見まわして

現在北アイルランドではプロテスタントとカトリックが、中東ではシーア派のイランとスンニ派のイラクが、インドではヒンズー教徒とイスラム教徒と更にシーク教徒とが互いに殺害を繰り返しています。信仰は往々にして独善的となり排他的となる。恐ろしいことです。「社会にキリストの平和を」と叫ぶ前に、わたしたちはまず、わたし達の住むこの社会の中に、既にキリストの平和がたよっていることに気付き、確認し、評価し、尊敬しなければならぬのではないのでしょうか。

※ ※ ※

聖体と共に一時間

— 世界召命祈願日に —

去る5月13日は「世界召命祈願日」であった。各教会は教皇の意向に従って、ミサ並びに説教において「召命」について考えられたに違いない。

東仙台教会ではこの日を特別な思いをもつて迎えた。なぜならば、毎日曜日、ミサの終わりに教会全体で「仙台教区に司祭召命を求め祈り」が唱えられている。従ってこの日は特別な日ということで午後2時から一時間の「聖体礼拝」が行われた。若者たちも含めて20数名がみことば、歌、沈黙の時を過ごした。尚、当日のプログラムは次の通りである。

プログラム

テーマⅡ「主よ、刈り入れに働く者をつかわして下さる」

- 聖体顯示 ● 聖歌典405「ひとつになろう」
- みことば—ヨハネ10章 ● 沈黙
- 聖歌—典123「主はわれらの牧者」答唱のみ
- 祈り ● みことば—イザヤ6章 ● 聖歌—典53
- 「神のはからいは」 ● 祈り(教皇様の祈り)
- 聖歌典409「呼ばれています」 ● みことば—
- マタイ28の19〜20 ● 主の祈り 以上

1984年 年間目標

社会に
キリストの平和を
(仙台司教区)



カテキスタ

— 宣教奉仕者に任命される —

去る6月17日、仙台教区ではじめて、カテキスタの宣教奉仕者の任命式が、佐藤司教様を迎えて花巻教会で行われた。

新教会法二三〇条の三によると、一般信徒も、教会の種々の奉仕に参加できる。

将来、司祭の不足が考えられる折から、信徒の役割を検討した結果、一般信徒を典礼奉仕者として養成し、必要の際には「みことばの祭儀」を司式し、ご聖体を授ける事が出来るようにと、昨年2月以来そのための研修会を重ねてきた。岩手地区の各教会から何人かずつの信徒が参加してこの研修会は、今まで四回行われ、ベトレヘム会の司祭達と笹気直哉神父様を講師として迎え、次回は7月、国井神父様のご指導を予定している。

もちろん、この典礼奉仕者任命については、それ相当の条件も考えられるし、いましばらくは研修を続ける事となるだろう。が、こうした今までの経過を背景として、まず、カテキスタに宣教奉仕者として法的な使命を与える事となったわけである。これは、「教会の宣教活動に関する教令」第十七条に基づいたもので、長年宣教活動につとめたカテキスタが各教会にあってその資格、立場が明確になれば、今後の働きの上で励みと自信が与えられると判断し、司教様もこれをご承諾されたわけで、花巻につづいて他の教会でも漸次任命式が行われる予定である。(A・ゲヴィレル神父)

話題

「バザーに参加させて下さい」

海外宣教者を支援する会(中央協・日本カトリック移住協議会内)では、「きずな」というパンフレットを発行していますが、その第6号に標題の小さな記事がありますのでご紹介します。

各教会や団体などで、バザーを開く場合、フィリピン製の竹カゴ、竹製品や、シチュウ入りのタオル、クッションなどを加えて下さいませんか。フィリピンのお母さんたちが作った手造りの品です。

売上げは現地に送り、貧しい人たちの生活費の一助となります。もし、バザーにそれらの品物を加えようと思われたら、「海外宣教者を支援する会」事務局へお問い合わせ下さい。ご斡旋いたします。

「第14回司牧評議会報告」から

敎教会では、教区を知ろう々というところで、七月末か八月初めに司教館の草取りに出かけ、今まで、東仙台、塩釜、一関の教会にも回り、お世話になった。草取りに参加して下さる方があればご協力下さい。また、祈りをもって私たちの運動を助けて下さい。

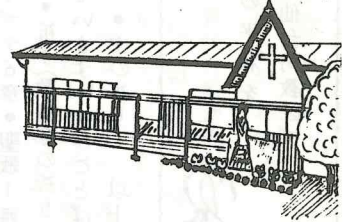
(小西氏)



おらが教会

(44)

宮城・角田教会



仙台を南へ三十九キロ、阿武隈山脈、阿武隈川にかこまれた伊具盆地に角田教会があります。この教会には、角田市及び丸森町に住む信徒が通ってきます。

このあたりは養蚕がさかんでしたので、列車の煙の害をおそれて、明治22年に東北本線を白石に通し、長い間不便をかこみました。

そのため、かえって環境破壊をまぬがれた温暖で住みよいところです。現在は丸森線福島までの実現に向かっております。角田市(人口三万三千程)では工場誘致にも熱心で、「シルクロード」から「シリコンロード」を目ざしております。昨年、角田にある研究所で開発されたロケットが種ヶ島で打ち上げられました。

さて、以前角田には教会がなかったため、大河原教会に通っておりました。昭和40年に角田に教会が出来たときには、皆でほんとうに喜びました。おらが町におらが教会が出来たのです。小林有方司教様他大勢の方がお祝いにかけつけて下さいました。

初代児山六七男神父様のゼロからの教会づ

くりの様子は宮城県カトリック教会「百年のあゆみ」の中にくわしく述べられております。児山神父様は地元民の強い要望にこたえられて、園児二十名の無認可施設から次第に建物、その他の内容をとのえ、現在ある県知事認可の立派な幼稚園の基礎を築いて下さいました(昭和40年から47年)。

このあと任命された高橋昌神父様は、園児の送迎のためスクールバスを購入、車庫を増築し、交通対策を図り、裏庭ブロック塀を完成するなど、教会と幼稚園の充実につとめられました。言葉は少ない方でしたが、細かく配慮していただきました。(昭和47年から51年)梅津明生神父様は一年間の在任でしたが、その暖かいまなざしは、御母堂様と共に私たちの胸に残っております。

昭和52年4月から高田徳明神父様が、亘理教会と兼任の形で教会と幼稚園の発展につくしていただいております。昭和53年には、司祭館と幼稚園舎の一部を新築しました。信徒の力で教会を維持し、活動していくことの大切さを強調され、又救われた者としてもつと困っている世界の人々に目を向け、出来ることをしようとの御指導をいただいております。小さな教会ですが、献金や救援カンパには努力をしております。高田神父様には兼務の身で年中忙しい中、聖書の研究会や亘理との合同黙想会の指導もしていただいております。梅津神父様のあと専任の司祭の居ない角田教会のささえとなっていただいているのは、ニコラ様方「聖母訪問会」のシスター方です。

慣れない土地に二人位で移り住み、教会と幼稚園のために働いておられます。世界平和行進に参加なさったニナ様もおられました。

日曜の通常ミサには十名程の参加ですが、ミサの後にはお茶をいただきながらなごやかに交流がもたれています。クリスマスや御復活には老若男女、山を下り、川を越えて三十名程になり、小さな御堂はにぎわいを見せます。そして一堂に会して心づくしのお祝いをしております。今年5月には斎藤夫妻の結婚金祝を亘理教会と合同でお祝いしました。

聖年の終る年、私たちの角田教会は、成年(二十年)を迎えようとしております。

信徒代表も初代斎藤さんから入村さん、そして笹森さんと更替しました。

古くからの信徒も少しずつ年を重ね、若い人や子供たちの活躍に期待が寄せられるようになってきました。私たちは今後どのように歩んで行くのがよいのか、神父様の御指導のもと皆で考えを出し合っており、実践を進めていかなければなりません。

地の塩として縦(教会)と横(信徒)のつながりを大切にし、今後とも努力して参りたいと思っております。(記 山家玲子)

【編集後記】



4月号をもつて、三浦師が仙台教区報の編集責任を退かれたのち、後任が決まらず、心ある方々に大変な心配をおかけいたしました。この6月号から私、首藤が編集責任をとることになりました。まずは発行日を正常に戻すよう努めたいと思っております。よろしく。